

## 人権機関有田川委員研修を

### 実施しました

社会福祉法人つわぶき会理事長の岩橋秀樹さんから「障害とともに生きる」と題したお話を聴くことができました。「つわぶき会」とは、和歌山市内で障害者のグループホームや共同作業所、デイサービス施設などを展開する社会福祉法人です。障害児を持つ父母の会の始まりと、つわぶき会の各施設の設定と現在までの変遷に沿った話を聴かせていただきました。

岩橋さんは2歳の時、ポリオに感染し、現在に至って身体に障害を持っておられます。

私も「ポリオ生ワクチン」という言葉は知っていましたが、詳細については知りませんでした。ポリオ（小児麻痺）は昔からあった感染症ですが、昭和30年（1955年）ごろに全国で大流行したそうです。和歌山県でも大流行しました。和歌山県立医科大学付属病院に病室が足りないほど患者があふれたそうです。

そんな中、旧ソ連で「ポリオ生ワクチン」が開発されましたが、時代は終戦間もない頃です。国や県も及び腰になる中、ポリオ患者の親たちが声を上げ署名活動などの運動に尽力しました。その結果、昭和36年（1961年）に「ポリオ生ワクチン」が緊急輸入されることになり、大流行が沈静化したそうです。この親たちの運動が始まりとなり、昭和39年（1964年）に「心身障害児父母の会」が結成され、同会の働きかけで、昭和42年（1967年）に和歌山市で、全国に先駆け障害児相談員制度が創設されました。当時は

身体障害者と知的障害者は国の管轄が異なっていたため別々の扱いでしたが、全国で初めて両者合同の施設「つわぶき授産工場」が開かれました。その後数々の障害者施設や就労支援事業所、グループホームが開設され、現在に至っているそうです。

それらの開設時には地域との間で課題も多くありましたが、施設利用者や職員、父母たちの地道な努力が実を結び、徐々に地域に受け入れられる施設となりました。

施設を見学に来たほとんどの人は、職員の姿を見て「入浴や食事の介助がうまい。やっぱりプロやね」と言うそうです。しかし、職員は「利用者にとりして認められ、利用者に『求められている』と感じてもらうこと」が意識の根本にあるのだそうです。

私の知り合いに、障害者施設で働いている人がいます。その人が言った「老人のデイサービスの送迎車はいっぱい走っているけど、障害者の施設は足りてないんや」という話を思い出しました。

私たちも、病气やけがでいつ障害者になるか分かりません。ひとごととは思わず、もつと現場が直面しているいろいろな課題について真剣に考えなくてはと思います。

人権機関有田川 湯田耕司



昨年11月26日（月）に清水地区の学校・事業所訪問を行いました。また、11月28日（水）に藤並駅で街頭啓発を行い、その後は吉備・金屋地区の学校訪問を行いました。

左写真＝事業所訪問の様子、右写真＝藤並駅での啓発活動の様子

## お知らせ

### 人権特設相談所

3月14日（木）、人権特設相談所を開催します。相談は無料で、秘密は厳守されます。

- 場所／清水会館
- 時間／13時～16時

### ■人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課  
TEL 522-2111  
FAX 324-827



左写真＝人権機関有田川委員研修の様子  
右写真＝社会福祉法人つわぶき会理事長の岩橋秀樹さん